

自然療法でセルフケア・オンライン講座 wk1

★ホメオパシーって何？★

ある日、ハーネマンは当時、マラリアに効くと言われていた「Chinchona」(キナ)の皮を煎じて飲んでみました。すると発熱や悪寒と言ったマラリアの症状を経験しました。

この事からハーネマンは「健康な人がある物質を服用して得ることのできる症状と同じ症状を持つ病にある人にその物質を与えることでそれらの症状を治すことができる。」という法則を発見しました。

これを「同種の法則」と呼びます。

HOMOEOPATHY はギリシャ語で Homeo＝同種 (Similarity)、pathy＝病気 (disease) という二つの言葉を合わせたものです。

コーヒーは眠気覚ましに良く飲まれます。つまり健康な人はコーヒーを飲むことで一時的に眠ることができなくなります。不眠症と言う病を抱えた人にこのコーヒーを与えることで逆にその不眠症を治すと言うのがホメオパシーの基本的なやり方です。

実際、コーヒーはレメディーとして処方されています。

ホメオパシーのレメディーは約 3000 種類あると言われています。

現在も新しいレメディーが毎年、世界中のホメオパスの間で発見されています。

レメディーは大別して動物性、植物性、鉱物(ミネラル)の 3 種類に別けられます。他には、Nosods と呼ばれる病気の細胞や病原体(例えば癌、梅毒、淋病など)などからも作られています。

鉱物の中では水銀など毒性の強いもの、植物ではトリカブト、動物では毒蜘蛛や毒蛇など、危険な物質も多くレメディーとして使われています。

そう聞くと不安に思われるかもしれませんが、ホメオパシーではその物質を天文学的な数字(アボガドロスナンバーと呼ばれるもの)にまで希釈しているので化学検査ではその毒性

が検出されることはありません。オリンピックプールに一滴のその物質が溶けていると想像して下さい。

想像をはるかに超える希釈を繰り返すことでその物質が持つ毒性は取り除かれ、エネルギー（波動）は高められます。また、レメディーの製造過程で薄めるたびにレメディーを振る（叩く）事でさらにエネルギーが増します。

これがホメオパシーの持つ不思議な力です。

イギリスでは王室もホメオパシーを採用していてヨーロッパではごく普通に治療法の一つとして選択されています。また、どこの薬局でもホメオパシーのレメディーを置いています。医療保険の対象ともなっています。

★ バイタルフォース★

バイタルフォース、英語で書くと Vital Force となります。

直訳すれば vital＝生命の、 Force＝効力です。

概念として一番近いのは「自然治癒力」ではないかと思います。

自然治癒力、つまり本来人間が持っている自分自身の病気を治す力、または病気と闘う力のことです。

古代、医学がこんなに発達する前、民間療法として信じられ実際に行われていた自然療法は、この、自然治癒力を助ける働きをしていました。

いつしか高度な医学と文明の発達に伴い、新薬や検査、手術に頼るようになり、この本来、人間が持っている力を置き去りにしてしまったのが現代の状況です。

医学の発達それ自体はもちろん喜ばしいことですが、治す側も治される側も人間だと言うことを忘れない前提のもとの話です。

すべての生きるものの細胞の一つ一つにエネルギーがあります。このエネルギーは血液や酸素と同じように人間の身体を循環しています。

血液や酸素の循環が悪くなるといわゆる病気の状態となりますが、それはエネルギーの流

れが悪くなっていることも同時に意味しています。

エネルギーが流れている、または流れていない状態をこの目で見ることが出来ませんが、それが様々な症状となって現れます。

東洋医学で言う、「気の流れ」とほぼ同じものです。

「なんとなく今日は調子が悪いなあ。」と思う時があるものです。

その身体から発する声を見無視しているといつか大きなツケとなって自分に戻って来ます。調子の悪いときはエネルギーの流れが滞っていることを身体が私たちに知らせようと働いているのです。

そういう時、自然治癒力は下がります。免疫力も低下します。

つまりもっと目に見えやすい形となって身体に現れます。これがさまざまな病気の症状です。その下がった力をレメディーを摂ることで刺激を与え活性化させるのがホメオパシーの役割です。

★急性と慢性★

➤ 急性の状態とは

突然症状が現れる

期間が短い

激しい

積極的な治療

➤ 慢性の状態とは

ゆっくりと発症(突然の場合もある)

期間が長い

激しい

長い治療期間

➤ 急性の場合の処方仕方

穏やかな急性の場合

ポーション:30C (例:普通の風邪)手持ちにあれば、12Cも可能

二日目に症状の見直しをし、劇的に悪くなっていれば、やり直し。劇的に良くなっていればレメディを中止。

頻度：毎時間～3時間ごと

激しい急性の場合

感情的・精神的症状を伴う

ポテンシー：30C

頻度：10～15分ごと